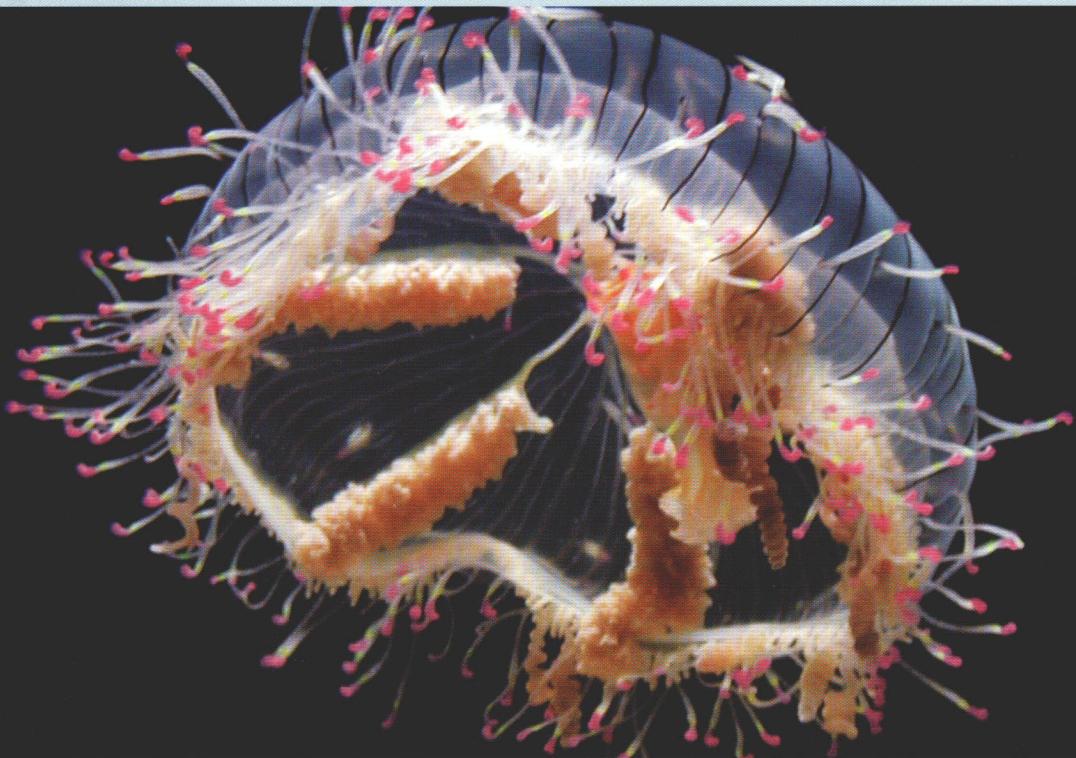


クラゲのおはなし

Jelly Fish Story

by Seiichi Mizutani



▲ハナガサクラゲ(刺胞動物)

淡水クラゲ目 Order Limnomedusae / ハナガサクラゲ科 Family Olindiasidae / 学名 *Olindias formosa* (Goto)

皆さんはクラゲと言われて何を思い浮かべるでしょうか？

「刺す」、「大量発生して発電所を止めし系」などではないでしょうか。

太古の昔よりその姿をほとんど変えることなく、約十億年という歳月を生き抜いてきたクラゲたちの姿を見るとき、さまざまな思いを抱くことができます。

クラゲは大きく分けて「刺胞動物」と「有櫛動物」の二つのグループに分けられ、さらにその中でいくつかのグループに細分化されています。

俗に言う「刺すクラゲ」は、刺胞動物に分類される仲間です。

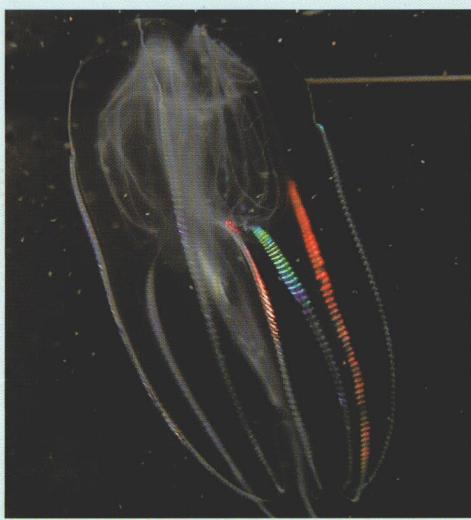
この仲間は、カサの周りにある触手に「刺胞」という毒針を発射する器官をミサイルランチャーのようにたくさん持ち、この毒針でエサとなる生物を捕らえています。

しかし、クラゲたちはエサを選んでしまったとき、「刺される」とあります。

この触手に人間が触つてしまふと、「刺された」と思われるのです。

「刺胞動物」に分類されるクラゲはすべて「刺す」のですが、クラゲの種類によって毒の強さに差があり、また、体質によっても毒の感じ方が違うので、刺されても気づかない種類もあります。

「有櫛動物」に分類され



▲カブトクラゲ(有櫛動物)

カブトクラゲ目 Order Lobata
カブトクラゲ科 Family Bolinopsidae
学名 *Bolinopsis mikado* Moser

皆

さんはクラゲと言われて何を思い浮かべるでしょうか？

るクラゲは刺胞を持っていないので、刺されることはありません。

クラゲは、その約九十%以上が水分でできているゼリー状の体を持つています。このため、展示する際に水槽内の流れが強すぎると、体がちぎれたり壊れたりしてしまいます。

かと言つて水流が弱いと水槽の底に沈み、そのまま腐つて溶けてしまいます。このため、クラゲの展示水槽では、クラゲの種類ごとに水流の強さ、方向にとても気を使う必要があります。

アカアマリンふくしま三階のオセニアックガレリアでは、そのうち四種類のクラゲを展示しています。

今後、さらにさまざまな種類のクラゲたちを展示し、内容の充実を図つていきたいと思っています。

(環境展示課 水谷 精一)